

U.S. Indicators

発表日:2023年11月6日(月)

米国 10月雇用統計はストの影響で適度な減速を示す

～米自動車メーカーでのスト終了を受け11月雇用統計で実態を確認する必要～

第一生命経済研究所 経済調査部

主任エコノミスト 桂畑 誠治(Tel:050-5474-7493)

23年10月の非農業部門雇用者数(事業所調査)は、前月差+15.0万人(9月同+29.7万人)と減速し、市場予想中央値(ブルームバーグ集計)の前月差+18.0万人(筆者予想同+20.6万人)を下回った。民間部門が米自動車メーカーでのストにより前月差+9.9万人(9月同+24.6万人)と大幅に減速したうえ、市場予想中央値(ブルームバーグ集計)の前月差+14.5万人(筆者予想同+18.8万人)を下回った。民間部門では、堅調な需要や人手不足の続く医療・社会援助が大幅な増加を続けたほか、芸術・エンターテインメント・余暇、建設業等が高い伸びとなった。一方、米自動車メーカーでのストの影響による自動車の大幅な減少によって、製造業は縮小した。

非農業部門雇用者数は、8、9月合計で10.1万人下方修正されたこともあり、3ヵ月移動平均で前月差+20.4万人(前月同+23.3万人)、6ヵ月移動平均で同+20.6万人(前月同+21.7万人)と鈍化した。ただし、基調としては21年8～11月をピークに減速傾向を辿っているものの、堅調な増加ペースを維持している。また、労働投入量は、米自動車ストの影響もあり前月比▲0.3%と減少したが、それでも移動平均・3ヵ月前対比年率で+1.8%(前月+1.4%)と拡大モメンタムを強め、労働需要が再び強まったことを示した。平均時給は、前月比で+0.2%(9月+0.3%:速報の+0.2%から上方修正)と市場予想中央値の同+0.3%を下回った一方、前年同月比では+4.1%(9月同+4.3%)と低下したが、市場予想中央値+4.0%を上回り、高い伸びにとどまった。

一方、失業率(家計調査)は、3.9%(前月3.8%)と上昇し、市場予想中央値(ブルームバーグ集計)の3.8%(筆者予想3.8%)を上回り、自然失業率である4.0%に近づいた。

10月の雇用統計では、米自動車メーカーでのストの影響をほとんど受けない失業率が上昇したほか、自発的失業率が依然高い水準だが低下しており、労働市場逼迫の段階的な緩和は継続していると判断される。ただし、米自動車メーカーでのストの影響で非農業部門雇用者数、労働需要などの鈍化幅が大きくなったことで、市場は実態以上に米労働市場の減速期待を強めた可能性があり、長期金利の低下など金融環境の引き締まりが大幅に弱まっている。

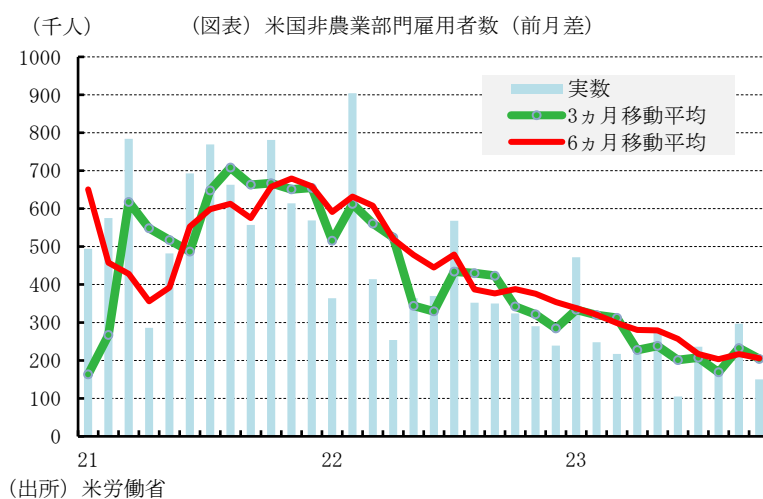
米国雇用統計

	失業率	非農業部門雇用者数							平均時給		労働時間	労働投入量	
		全体	製造業	建設業	サービス関連業			政府	前月比	前年比		前月比	年率※
		前月差	前月差	前月差	全体	小売業	狭義サービス						
21.4Q	4.2	655	49	41	560	20	430	▲6	1.5	5.3	34.8	1.6	6.5
四半期													
22.1Q	3.8	561	44	33	481	59	317	6	1.4	5.6	34.7	1.0	4.1
22.2Q	3.6	329	34	19	270	▲25	219	12	1.1	5.6	34.6	0.7	2.8
22.3Q	3.5	423	33	16	373	12	284	42	1.2	5.3	34.6	0.8	3.3
22.4Q	3.6	284	19	21	240	▲8	203	31	1.1	4.9	34.5	0.5	1.9
23.1Q	3.5	312	1	10	299	17	190	78	1.0	4.5	34.5	0.6	2.4
23.2Q	3.5	201	3	22	174	▲1	138	28	1.1	4.4	34.4	0.0	0.0
23.3Q	3.7	233	3	18	210	7	128	64	1.1	4.3	34.4	0.3	1.4
2304	3.4	217	9	11	192	▲2	144	38	0.4	4.4	34.4	0.1	1.3
月次													
2305	3.7	281	▲4	25	257	21	170	26	0.3	4.3	34.3	▲0.1	0.2
2306	3.6	105	4	29	73	▲23	100	19	0.4	4.4	34.4	0.3	0.0
2307	3.5	236	▲2	12	224	13	98	91	0.4	4.3	34.3	▲0.2	0.3
2308	3.8	165	▲2	30	137	▲6	113	51	0.3	4.3	34.4	0.3	1.3
2309	3.8	297	14	13	269	13	173	51	0.3	4.3	34.4	0.3	1.4
2310	3.9	150	▲35	23	161	1	113	51	0.2	4.1	34.3	▲0.3	1.8

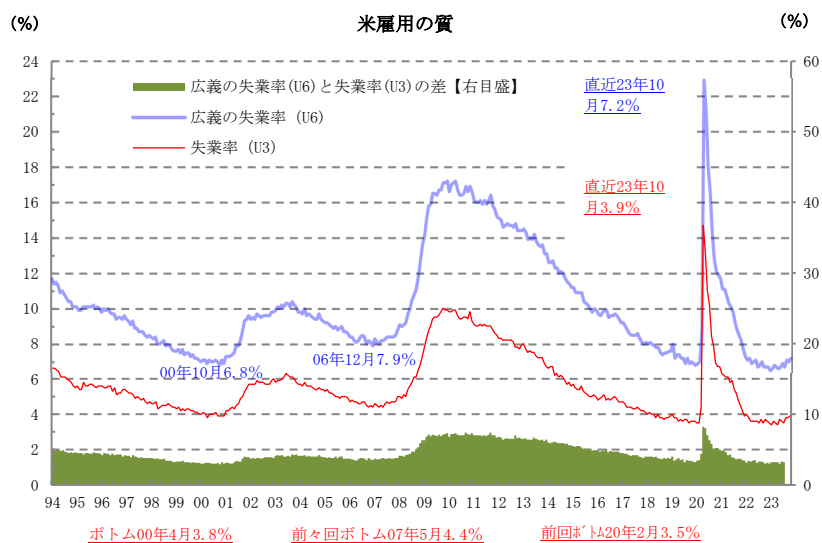
10月の非農業部門雇用者数（事業所調査）は、前月差+15.0万人（9月同+29.7万人）と減速した。政府部門が前月差+5.1万人（9月同+5.1万人）と速いペースで増加を続けたが、民間部門が米自動車メーカーのストにより前月差+9.9万人（同+24.6万人）と大幅に減速した。

民間では、堅調な需要や人手不足の続く医療・社会援助が前月差+7.72万人と引き続き最大の増加となったほか、建設業（同+2.3万人）、芸術・エンターテイメント・余暇（同+2.04万人）、専門・技術サービス（同+1.7万人）、教育サービス（同+1.15万人）が需要の拡大を受け高い伸びとなった。また、卸売業（前月差+0.94万人）、宿泊（同+0.67万人）、派遣業（同+0.66万人）、不動産・リース（同+0.51万人）、保険（同+0.11万人）、小売業（同+0.1万人）が増加した。

一方、減少した業種では、製造業が前月差▲3.5万人減少した。米自動車メーカーでのストやレイオフの影響で自動車が前月差▲3.32万人と減少したほか、一次金属、プラスチックなど他の業種にも悪影響が及んだ。他には、輸出入の鈍化、ストにより輸送・倉庫が前月差▲1.21万人、映画作成の遅れなどで情報産業が同▲0.9万人、飲食店が同▲0.75万人、その他サービスが同▲0.1万人と減少した。また、米中堅銀行破綻の悪影響が懸念される商業銀行は前月差▲0.58万人と減少した。



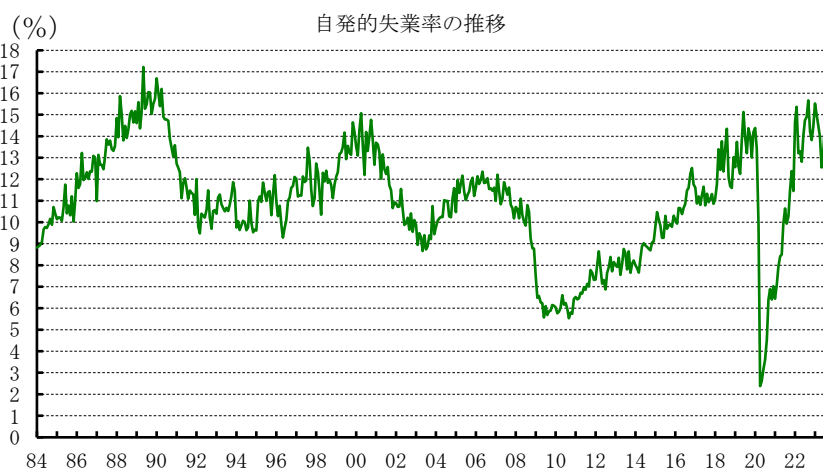
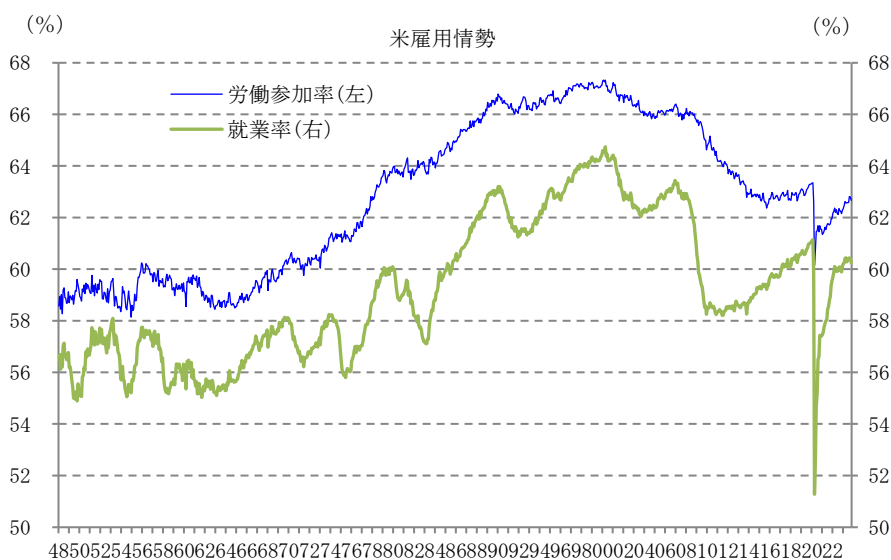
10月の失業率（U3、家計調査）は、3.9%（前月3.8%）と上昇し、自然失業率と推測される4.0%に近づいた。また、“現在は職探しをしていないが過去1年間に求職活動を行った人”と正規雇用を探しているがパートタイムで働いている人“も失業者を含む広義の失業率（U6）は、7.2%（前月7.0%）と上昇した。さらに、労働市場の好調な時に上昇する自発的失業率は、12.3%（前月12.5%）と小幅低下するなど、労働市場逼迫の緩和継続が示された。



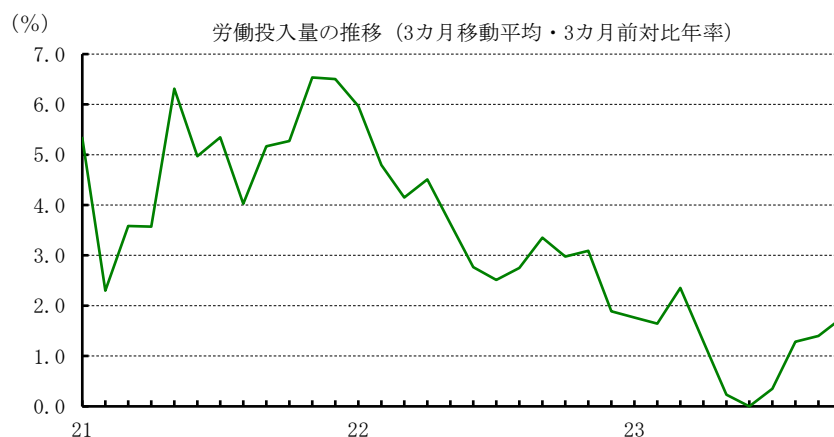
(出所) 米労働省

今回は23年4月3.4%

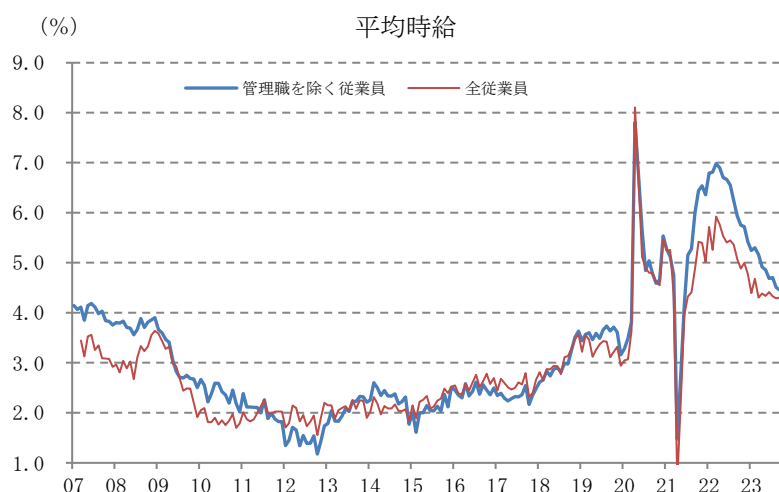
(注) U6：通常の失業者に加えて、正規雇用を探しているがパートタイムで働いている人や過去1年間に求職活動を行った人を失業者としてカウント

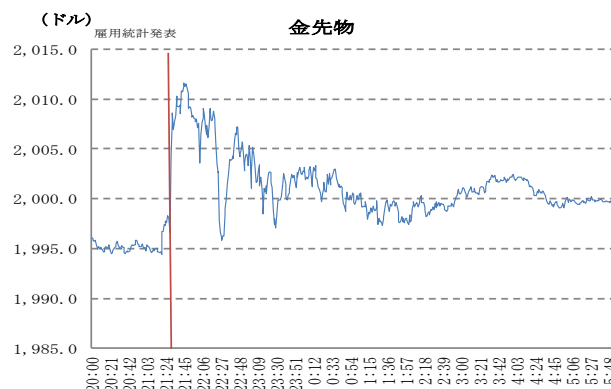
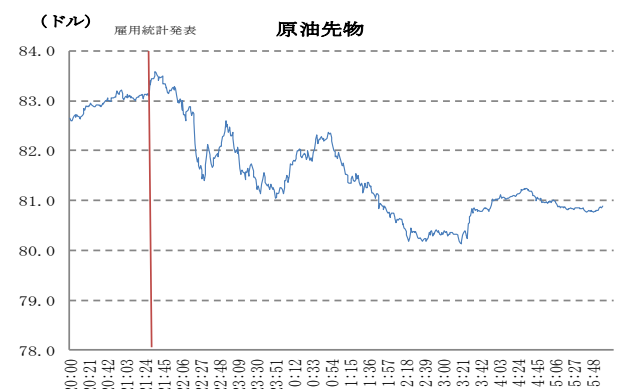
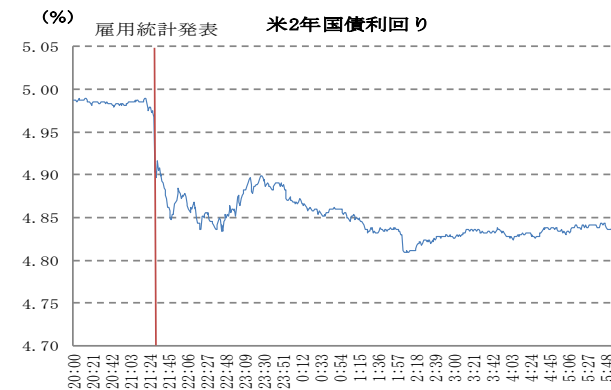
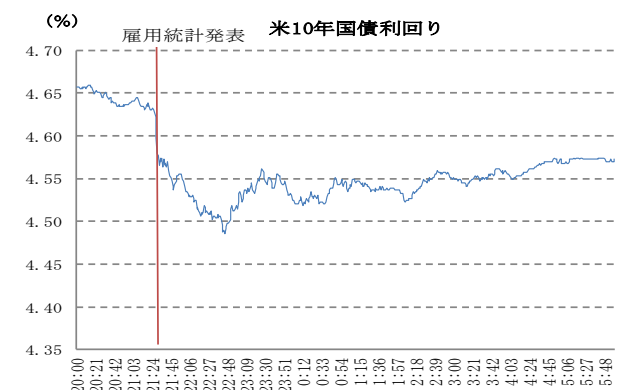
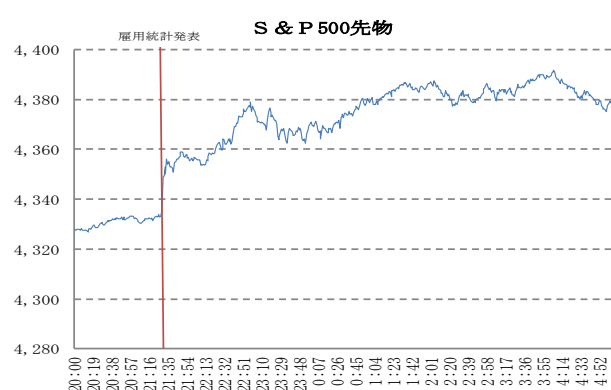
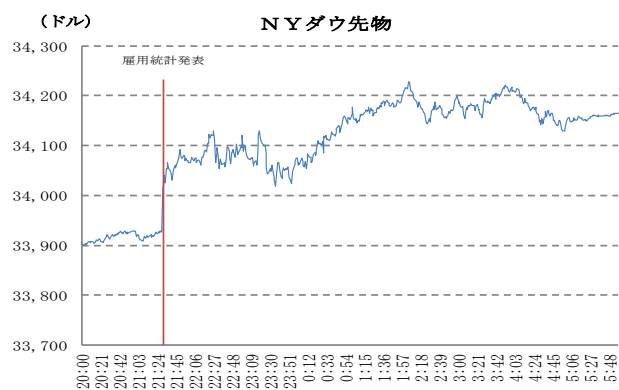
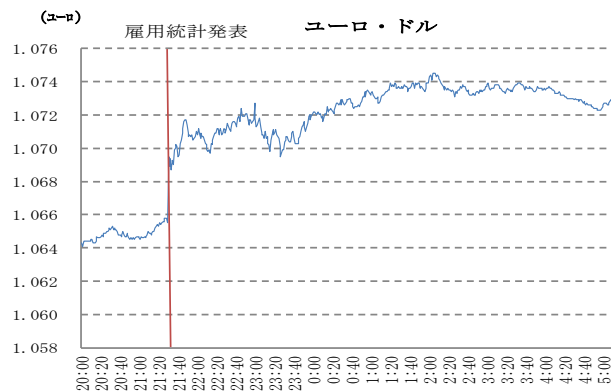
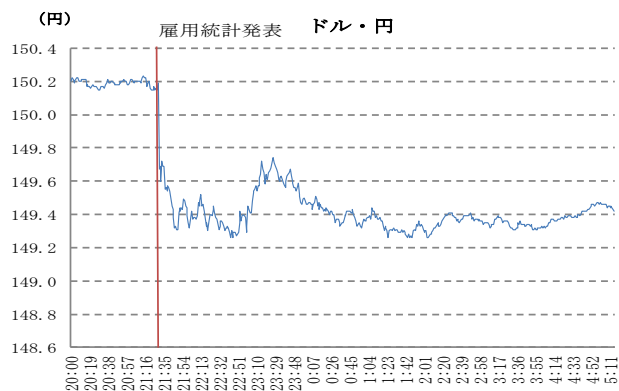


労働投入量は、米自動車メーカーでのストの影響等によって前月比▲0.3%（9月+0.3%）と縮小したが、3カ月移動平均・3カ月前対比年率で+1.8%（前月+1.4%）と小幅加速し、労働需要は再び強まっている。



このような中、平均時給は、前月比で+0.2%（前月+0.3%:速報の同+0.2%から上方改定）と市場予想の+0.3%を下回ったが、前年比では+4.1%（前月+4.3%）と市場予想の+4.0%を上回った。平均時給は22年3月の前年同月比+5.9%をピークに低下傾向を辿っているものの、上昇率が依然高く一部のサービス価格を押し上げ、依然としてコアインフレの鈍い低下の一因となっている。





本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命保険ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。